

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第24期・第1回）議事録

日時：平成29年12月26日（火） 9:30-12:10

会場：東京大学地震研究所 1号館2階 セミナーA室

出席者：春山成子，石川徹，伊藤悟，奥村晃史，小口高，川幡穂高，小嶋智，近藤昭彦，齋藤文紀，佐竹健治，篠田雅人，杉田文，鈴木康弘，張勁，津田敏隆，佃栄吉，橋口公一，氷見山幸夫，平田直，村山祐司，村山泰啓，森田喬，山形俊男，矢野桂司，山田育穂

スカイプ参加：伊藤香織，谷口真人

欠席者：石川義孝，高橋桂子，碓井照子，沖大幹，寶馨，中田節也，山岡耕春，安成哲三，山川充夫，山下博樹

配布資料

資料1. 地球・人間圏分科会の設置

資料2. 地球・人間圏分科会の名簿

資料3. 23期地球人間圏分科会からの提言(災害軽減と持続可能な社会の形成に向けた科学と社会の協働・協創の推進)

資料4. 23期からの申し送り事項について

資料5. 地球人間圏について(提言より)

資料6. 地球人間圏夢ロードマップ

資料7. 地球人間圏科学—持続可能な日本，アジア，世界の実現の道 8. 旧期の学術会議大型研究計画(マスタープラン) 申請フォーマット

議題

1. 分科会の委員長互選と役員選出（副委員長および幹事）
2. 谷口委員による Future Earth プログラムの現況について
3. 分科会委員の自己紹介（専門分野の紹介を含む）
4. 23期地球・人間圏分科会活動と課題
5. 英文書籍並びに和文書籍出版に関わる経過
6. 24期地球・人間圏分科会の活動方針の説明と審議
7. 大型研究について
8. その他

議事録

議題1. (議題の1と2を入れ替えて審議)

谷口真人委員より Future Earth の研究組織，ネットワーク，最近の活動（国内・国外）

などについて説明があった。より詳しい情報は Future Earth のウェブページで参照できることも紹介された。

議題 2.

委員長に春山成子委員が互選された。引き続き春山委員長が平田直委員を副委員長に、伊藤悟委員、小嶋智委員を幹事に指名し、了承された。

議題 3.

各委員から所属や専門を含めて自己紹介がなされた。また、欠席の安成哲三委員のメッセージも紹介された。

山下博樹委員の辞任の申し出が報告され、承認された。この他に、今後、委員追加があることが紹介された。

議題 4.

春山委員長から分科会の設置目的、これまでの活動に関する説明があった。本分科会は、シンポジウムを毎年開催し、提言もほぼ3年ごとに出してきたことなどが紹介された。

氷見山幸夫前委員長より、先期の提言「災害軽減と持続可能な社会の形成に向けた科学と社会の協働・協創の推進」に関し、内容や背景等の説明があった。また、この分科会の特徴として、広い分野の人が全員で課題に取り組んできたことが紹介された。

議題 5.

【和文書籍の出版準備状況】

鈴木康弘委員より次のような説明があった。すなわち、鈴木・山岡・寶委員が編集委員となり、古今書院より「地球の未来を科学は今どう捉えているか」というタイトルで出版予定あり。地球の未来に対する24の設問に執筆者が答える形式とのことであった。

既にほとんどの原稿が集まっており、1月から校正作業に入り、5月のJpGUで出版・販売することが目標とされた。

【英文書籍の出版準備状況】

氷見山幸夫委員より次のような説明があった。すなわち、Springerより出版が予定され、執筆者は20名程度で、現在2/3程度の原稿が入稿済みである。

議題 6.

これまで通り、シンポジウムは年1回行い、提言を出すことも目標とする。3年目に提言を出すことを目標とするが、学会会議の都合も考慮する必要がある。

24期の活動に関するブレインストーミングを行い、以下のようなキーワード、キーセンテンスが紹介された。

- ・ 地域研究，地域経営の1手段としてのジオパーク。
- ・ 23期に取り組みなかった気候変動や地球温暖化，水資源問題。
- ・ 23期はやや抽象的な議論が多かったのもっと現場に近い話を。
- ・ オープンサイエンス，社会への事実提供としての研究データの共有。
- ・ 自然圏を人間社会との関わりの中で理解する。
- ・ SDGs，Energy，都市と防災，海洋保全，生物多様性，気候変動，人類の進化とレジリエンス。
- ・ 本分科会は第1部とのパイプ役や他分野とのハブ役を担うべき。
- ・ 自然災害：国と地域の関係の中で考える，災害教育の充実・普遍化。
- ・ 地理情報の地図表現方法。
- ・ 防災にあまり特化せず人間安全保障全般（心のケア，道徳の進化，他者の痛みなども含める）という視点を持つ。
- ・ 地球人間圏科学という教科書の必要性。若い人に夢を与えるものを作る。
- ・ 夢ロードマップとの整合性。
- ・ SDGs，教育（地理＋地学＋生物などの他分野），Citizen Science。
- ・ 2040年の日本をイメージした活動を。限界集落。
- ・ 干ばつ災害という視点が欠落しがち。世界規模でみると重要。

以上のような意見をもとに春山委員長より以下の2点を活動方針とすることが総括された。

- ・ データサイエンスをキーワードに活動し，シンポジウムに結びつける。
- ・ SDGsをキーワードに活動し，こちらは提言に結びつけたい。

なお，教育問題は人材育成分科会でも扱っているので，そちらとの調整が必要である。

議題 7.

平田委員より，先回は掘削科学，地震火山，地球深部固体地球科学に関する提案を行ったことが紹介された。

それを受けて，大型研究を出す場合は，ロードマップにキーワードを入れる必要性や，夢ロードマップ作成には，JpGUより送られてくる予定の共通フォーマットを利用するなどが指摘された。

議題 8.

分科会員のメールアドレスの取り扱いについて意見が出され，最終的な取り扱いは委員長に一任することとなった。

次回の分科会は，他の地球惑星科学委員会の分科会の開催予定も考慮し，4月上旬に開催する予定となった。